

こんな散布方法 どう思う？

1. あるキーパーとの会話

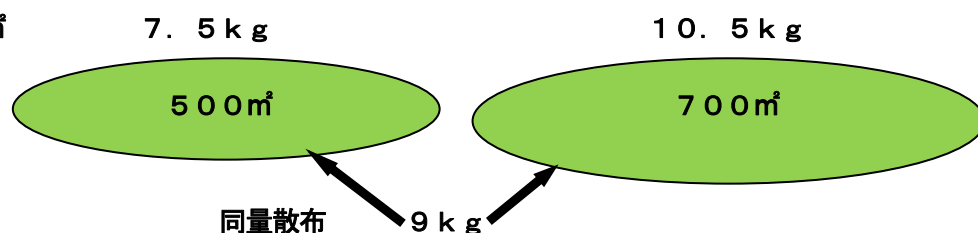
以前、熊本県のキーパーとの会話です。このキーパーは理論も現場も精通したベテランキーパーでした。私がある肥料の話をしたところ、このキーパーが「どの程度散布したらいいのか？」と質問があり私は「1 m²あたり〇〇g」と答えたところ、そのキーパーは「あんたはm²あたりで肥料をやるのか」という返事が返ってきました。そのキーパーの話は次のようなことでした。

2. グリーン面積に関係なく同じ量？

このキーパーの話では、大きなグリーンは芝が痛まない。逆に小さなグリーンは痛むので小さなグリーンは施肥量を多くする必要がある。つまりグリーンの大小に関係なく同じ施肥量にした方が、理にかなっているとのことでした。特にティグランドはグリーンより、この方法がよく、小さなティはm²当たり多く施肥する必要がある。また、No 1、10は他のティグランドに比べて、2倍程度散布するとのことでした。つまりグリーンやティの面積が極端に変わらない場合は、この方法もよいと思います。

このキーパーは、定期的に施肥を考えるのではなく、もっと柔軟に考えるべきであることを、言いたかったのだと思います。

N10%肥料 15 g/m²



3. 外周刈り部分は倍量施肥

兵庫県のあるコースでは外周刈り部分の生育が悪く困っていました。ところが後日訪問したら、この場所の生育不良がなくなっていました。キーパーに聞くと、グリーンに施肥をしたら最後に外周刈り部分だけもう一度施肥を続けたところ、生育不良がなくなったようです。これも状況に合わせた適切な方法だだと思います。

芝草漫遊記

数十年前の話ですが、岐阜県のあるコースに行きました。グリーンの状態が良かったので、どの程度施肥をしているのかを聞いたら、「どのグリーンも〇〇kgやっている」とのことでした。私がグリーンは大小あるので、m²あたりで分量を計算して散布する必要があり、ホールごとに散布量は異なることを説明しました。しかし、十分に理解はできなかつたようです。

1年後に同じコースを訪問し、「どのグリーンもこの肥料を〇〇kg施肥して下さい」と説明したら、キーパーは「グリーンに大小があるので同じ施肥量ではだめだろう」という返事があり困ったことがありました。誰かに成分計算と施肥方法を教えてもらったようでした。

全国を訪問していると施肥計算ができない人や、しない人。農薬も前任者がやっていた通りに1タンクに〇〇kg投入などで管理しているキーパーもいます。しかし、芝はそれなりに問題がない場合も多く、このようなキーパーは芝の観察力が鋭い人が多く、現場対応能力が高いなどの強みを持っている人もいます。